

●学習指導プラン【高等学校 第1学年 HR】

学習内容	<p>「外部講師による講演会」 この地域（自分たちが住む町）だからこそできる、地域密着的な発電事業について理解を深める。</p>		
ねらい	<p>・再生可能エネルギー教育推進事業も終盤を迎え、これまでの学習で生徒たちは、再生可能エネルギーの重要性を意識してきた。そして地域とのリンク、つまり、“この地域だからこそ何が出来る”という視点を追究する必要があるため、外部講師による講演会を行い理解を深めさせることにした。</p>		
段階	学習活動・内容	時間	○ 指導上の留意点 評価(評価方法)
問題把握	<p>“地域の再生可能エネルギーを考える上での学習ポイント”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む町を知り、風土や気候からどんな再エネがこの地域にマッチングしていたのか確認する。 ・地域の人とエネルギー生産を結びつける秘訣は何かを知る。 <p>・授業担当者のプレゼンテーションを聞く。</p>	15	<p>○プレゼンテーションによる説明とアンケート結果によって、これまで学習してきたことを確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>説明を真剣に聞き取り、本時の学習ポイントを意識付けすることができる。（観察）</p> </div>
問題追及	<p>・講演者による講演を聞く。 藤田建設工業株式会社 代表取締役社長 藤田光夫 氏 テーマ「エネルギーシフト」</p>	45	<p>○講演を視聴しながら、重要ポイントがあればメモをする。 ○最後まで、真剣に視聴する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>メモを取りながら、大事なポイントを把握する。（観察）</p> </div>
まとめ	<p>・この地域（自分たちが住む町）だからこそできる、地域密着的な発電事業について理解を深める。</p>	10	<p>○住環境とエネルギーとの関連性に大きな期待感を持つことができたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>講演を振り返りながら、配付記入用紙をまとめ、自分の考えも整理することができる。（記述分析）</p> </div>
作成推進校	福島県立白河実業高等学校		

「外部講師による講演会について」

この度、再生可能エネルギー教育推進事業における外部講師による講演会を実施しました。

<まえがき>

生徒たちは、これまで循環型社会を目指す手段として、エネルギー資源への理解または、再生可能エネルギーの在り方について学んできました。

“地域の再生可能エネルギーを考える上での学習ポイント”

- ・自分たちの住む町を知り、風土や気候を知る。
- ・地域の人とエネルギー生産を結びつる秘訣は何か。

上記の観点をふまえた講演会視聴となりました。

講師：藤田建設工業株式会社代表取締役社長 藤田光夫様

テーマ：「エネルギーシフト」

聴講生：電子科 1年



<視聴にあたり>

再生可能エネルギー教育推進事業も終盤を迎え、これまでの学習で生徒たちは、再生可能エネルギーの重要性を意識してきました。そして地域とのリンク、つまり、“この地域だからこそ何ができる”という視点を追究する必要がありました。

今回の視聴によって、住環境とエネルギーとの関連性に大きな感動と期待感を持つことになりました。それは“間伐材の活用”です。健康な森林を維持するためには、継続的な間伐が必須です。また建材となることができなかった端材の存在、この有効利用の難しかったモノそのものがバイオマス発電の燃料となるのです。

この燃料は、この地域だからこそ、身近に存在しているのです。そして大いに活用すれば、化石燃料に頼らない地域循環形スマートビレッジ構想（電力の自給自足）が可能となるのです。

そこで、地域の施設（藤田建設関連のレジャー施設）では、“木質バイオマス小規模ガス化発電”という小型ながら熱交換率の高い設備を設け、運用を始めようとしています。まさに、“先駆けの地における再生可能エネルギーの先駆者”といえます。このような地域密着的な発電事業が増えれば、他の再エネ以上の雇用も生み出します。そして、この構想が今後、白河の各地域に普及すれば、燃料の海外依存も少なくなり、「まだ、石油使っているの？」という会話が聞かれるように、なるのではないのでしょうか。

最後に、近い将来、ゼロ化石燃料を目指すのであれば、「省エネ50%」&「再エネ50%」というように、新しいモノを追い求めるだけでなく「省エネ」という意識を心の根底に持つことが、肝要と思える講演でした。